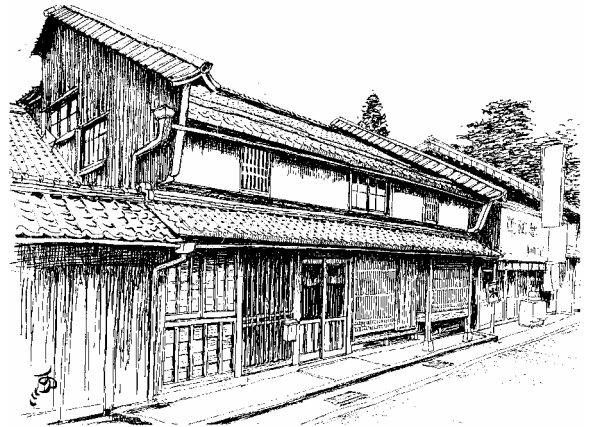


日本の民家を創ってきた 技術観に立ちかえる

住まいと暮らしに環境保全性と文化性を甦らせるために

わが国の伝統民家は世界最高水準のエコロジー建築である。

研究領域としてきた「地震に備える構造の仕組み」から切り込んで、材料・構法・構造・生産とそこでの暮らしが見事なエコロジーシステムを成すことを示し、これを取り戻す営みの近未来的意義について語る。



講師

鈴木 有

木の住まい考房 主宰

金沢工業大学名誉教授、秋田県立大学名誉教授
NPO 法人緑の列島ネットワーク相談役

京都大学建築学科大学院修了。京大助手、金沢工業大学教授、秋田県立大学教授を経て故郷近江に戻り、木の住まい考房を開設。

専門は木質構造学・耐震工学・地域防災学。

近年は伝統木造構法の研究を重ね、その真髄を復権・再構する実践を続ける。

この間、北陸3県・秋田県・滋賀県等で官民組織に関わり、木造建物の耐震診断改修・木造公共施設建設・地域木材活用・市民協働の地域づくりなどに参画。

日時：2005年6月11日(土) 14時00分～15時30分

会場：NPO 法人西山卯三記念すまい・まちづくり文庫

京都府相楽郡木津町兜台 6-6-4 積水ハウス総合住宅研究所内 3階会議室
(近鉄京都線高の原駅下車 徒歩15分)

参加費：無料(文庫会員でない積水ハウス社員・学生の方の参加歓迎)

申込み/お問合せは：Eメール npo@n-bunko.org または FAX：0774-73-5701(木・金・土)
ホームページ <http://www.n-bunko.org/> (アクセス記載)

*講演会のあと文庫総会の懇親会(会費3000円)があります。